

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3170100766
法人名	医療法人 アスピオス
事業所名	グループホーム まさたみの郷
訪問調査日	平成19年 7月23日
評価確定日	平成19年 9月 7日
評価機関名	特定非営利活動法人 鳥取社会福祉評価機構

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3170100766		
法人名	医療法人 アスピオス		
事業所名	グループホーム まさたみの郷		
所在地 (電話番号)	鳥取県鳥取市杉崎596番地 (電話)0857-53-5788		
評価機関名	特定非営利活動法人 鳥取社会福祉評価機構		
所在地	鳥取市湖山町北2丁目116番地		
訪問調査日	平成19年7月23日	評価確定日	平成19年9月7日

【情報提供票より】(平成19年 7月 6日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年 7月25日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.2人	

(2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	0 円	昼食 0 円
	夕食	0 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(7月 6日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	3名	要介護2	4名
要介護3	2名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 82.9歳	最低 63歳	最高 88歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	鳥取産院 秋山歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鳥取市南東部のJR津ノ井駅近くに位置する4階建ての福祉複合施設の一階部分にある1ユニットのグループホームである。管理者の認知症介護の経験は14年以上と豊富であり、職員の経験年数も平均6年以上と豊富である。管理者及び計画担当者は管理者研修を受講しており、他の職員も研修受講には積極的である。利用者は63歳から88歳と幅広くなっているが、活動的で外出を好み、ドライブ、買い物、旧跡めぐり等をほぼ毎日行っており、利用者はそれぞれが明るく楽しそうに過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域に向けた広報誌を季節ごとに発行するという改善項目に対して今年1月から写真入りの広報誌を季節ごとに作成し、地元公民館や近隣に配布し、又運営推進会議でも配布して、グループホームの現状の認識と認知症の理解をしてもらうように努めている。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は項目数が多かったため職員ごとに担当を決めて行なったが、後日それぞれの検討結果を持ち寄り、その結果を項目ごとに全員で検討を行ない、合議で決定した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に一回定期的に開催されており、出席者も地域住民代表者や民生委員、鳥取市の担当者、地域包括センター職員及びご家族等多彩なメンバーで実施している。主にグループホームの現状や活動報告等を行いグループホームや認知症に対する理解を深めるようにしている。又利用者がボランティアで津ノ井駅の清掃を行なっている等も説明し、会議で出された意見も取り入れるようにしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族の来訪時には必ずコミュニケーションをとるようにしており、利用者の担当が休みの場合には他の職員が対応してなるべく生活の細かい部分の様子を報告するようにしている。又毎月の報告書にもコメントを記入して日々の生活の様子が充分伝わるようにしており、ご家族からの意見があった場合は全員で検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元自治会には加入しており、自治会主催の行事や地元小学校の発表会や運動会等にも参加し、又施設が主催するひな祭りや納涼祭等にも多くの住民の方々に参加してもらい、相互の交流に努めている。又利用者、職員で地元の清掃奉仕を行い、地元住民の方とコミュニケーションを図るように努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは異なるグループホーム独自のより具体化した理念を作り、日々のミーティング、朝夕の申し送り等で理念を話すようにしている。地域との交流は19年度の目標としては位置づけているが、理念として掲げてはいない。	○	地域との交流を理念に組み込んで、より地域と交流を促進し、又地域に密着したグループホームを目指してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者が毎日笑顔でくらするようにとのグループホームの理念は玄関入口の見やすい所に掲示されており、日々のミーティングや朝夕の申し送り時に徹底している。利用者の中には暴言を吐く方もおられるが、相手の言葉を否定せずに対応するなど理念の実行に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元自治会には加入しており、自治会主催の行事には出来るだけ参加するようにしており、地元小学校の発表会や運動会にも参加して、小学生や中学生との交流にも努めている。又、施設主催の行事にも地域住民の方々にも来訪していただいて交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が過去に何回も外部評価を経験しているので自己評価及び外部評価の意義、目的を理解している。今回は各項目ごとに担当を決めて検討した後それぞれの検討結果を持ち寄って全員で検討した。前回の要改善項目も全員で改善計画を作り改善に取り組んだ。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はご家族、地域住民、鳥取市の担当者及び地域包括職員等約10名で構成しており、グループホームの現状や活動報告を行い、その場に出た意見を重要事項説明書や契約書の改訂につなげたりして、運営推進会議を業務改善に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	鳥取市の担当者名は分かっているが、運営推進会議以外のところではなかなか接触する機会がなく、鳥取市の担当者に相談する課題もなく、行政と協働して質の向上、課題に取り組んでいるとまではいえない。	○	運営推進会議以外でも行政の担当者に情報提供して、現状の報告や問題点、改善点を協働して解決していくことが望ましい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご家族の多い方で週2回、少ない方でも月一回は来訪されるので、そのときには職員の方から積極的に声かけをしている。利用者すべての情報は職員が共有しているので、担当が休みの日でもご家族には対応できている。本人の細かい日常の様子を主に話している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しており、又重要事項説明書等にも施設側の窓口及び市町村の窓口とも明記されている。職員は来訪時やケアプラン作成、見直し時等にご家族と話し合っている。利用者やご家族の意見や不満等が有れば職員全員で検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在まで職員の退職等の大きな異動はない。法人側管理者はグループホーム及び認知症の特殊性を充分理解されており、職員の移動等には法人の都合による異動等はなく、退職等の異動がある場合でも1ヶ月以上の期間を取るようになっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員数8名のうち5名が50代であり、経験豊富な職員が多い。年間の研修計画が立案されており、本人の希望と経験に沿った研修の受講を行っている。研修終了後は職員会の場で研修内容を発表して職員全員が情報の共有を図るようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鳥取県グループホーム協会にも加入しており、グループホーム協会主催の相互研修に参加している。同一法人内での交流はあり、他法人のグループホーム同士でも1年に一回は職員を派遣して相互研修も行っている。	○	現在も同一法人内でのグループホームの交流や他法人のグループホームとの相互研修等を実施しているが、より多くの施設との相互研修や見学等を積極的に行い、相互にサービスの質を高めて行く必要がある。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者の中には火災等の問題行動がある入居希望者があつたが、その場合でもある程度の期間を取って、職員も自宅に訪問し又来訪していただいた。通常は2ヶ月位の期間を設けてリロケーションギャップが生じないようにご家族と相談しながら対処している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	帰宅願望のある利用者には息子さんを迎えに来るからというような、利用者に安心していただけるような声かけを行い、利用者の不安や悲しさ、嬉しさを共有するようにしている。又一緒に古いアルバムを見ながら得意分野を教えてもらったり、励ましてもらうこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者やご家族の表面的な声や状態だけではなく、利用者の視点、真意、日頃の行動や過去の生活歴、アルバム等を見て職員で話し合い、どのような支援が必要か検討して、日々のケアに活かすようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との日頃の会話やご家族の意見等を聞きながら、利用者の生活歴、医療情報、身体状況等を総合的に検討して穏やかに、楽しく暮らせるように支援するケアプランを作成しており、担当職員を中心に全職員でケアプランを確認しながら日々のケアを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは毎月行っており、ケアプランに対する意見交換を行なっている。利用者やご家族の意見、要望を常に聞き取り、心身の状態変化やケアプランの達成状況によって見直しを行い、現状に即した計画を作成するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症対応型通所介護や医療連携体制加算及び短期利用型共同生活介護の指定を受け、施設側の受け入れ体制は十分に整備されているが、空きスペースがなかったりと十分に機能しているとはいえない。又多機能性を利用した穏やかな住み替えが出来るように検討してほしい。	○	施設側の多機能性を活かした柔軟な対応を行い、なじみの環境を作りながら、穏やかな住み替えが出来るように支援していく事が望ましい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を主体にして、受診の支援を行なっている。受診時には「身体生活状況受診票」を作成して医師に生活状況等を情報提供し、医師からもコメントを書いていただいて受診後のケアやケアプランの見直しに活用している。ご家族との意見交換も行なっており、意思の疎通はできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在はターミナルケアの対象者は居ないが、ターミナルケアについて対応できる支援方法をご家族の方に説明し、その時々々の状況や状態に応じ関係者全体の方針や支援の統一性を図りながら具体的に支援の方法を話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけは利用者の人格、個性を尊重して行なっており、如何なる時にもプライバシーへの配慮をしている。不要書類やメモ等はシュレッダーで処理されている。パソコンのデータは施設外への持ち出しは厳禁されており、法人全体としても重要課題として取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のスケジュールを優先せず、一人ひとりのペースを大切に、その時々々の利用者の気持ちを尊重して個別性のある支援を行なっている。利用者の希望を重視して、晩酌や喫茶店でのお茶を楽しんだり、その人らしい暮らしになるように柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、盛り付け、片付け等すべて利用者と一緒に行っており、利用者と相談しながら旬の食材を取り入れている。職員は利用者と同じテーブルと一緒に利用者を支援しながら楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の生活習慣や身体状況に合わせて臨機応変に支援をしている。時間帯も希望に合わせて入浴支援を行い、又菖蒲湯等の季節が感じられるものも取り入れている。入浴を嫌がる利用者には時間や職員を替えて声かけをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者やご家族からの情報をもとに、趣味や楽しみごとを見出して、お花を活けるとか、お手前を楽しむとか、体操等の体を動かす等それぞれの趣味や生活歴に合った支援を一人ひとりに合った形でやっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者やご家族の希望に応じて買い物やドライブに日常的に出かけている。お弁当を作っていくこともあり、戸外で気持ちよく過ごせるように工夫している。納涼祭等の行事にも参加し、季節感等の刺激を五感に与えるようにして、気分転換を図っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	幹線道路沿いに立地しているため、ご家族の中には交通事故を心配して鍵をかけて欲しいとの要望もあるが、すべての職員が鍵をかけない介護の重要性を認識しており、常に見守りをして鍵をかけない介護に取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけをしている	災害時マニュアルは整備されており、避難訓練も年間計画を立てて地域の方々にも呼びかけ、参加してもらって取り組んでいる。災害時に備えての備品や非常食の備蓄も法人全体として行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の生活習慣や日頃の様子を観察し、季節の食材を活かして、栄養バランスに配慮しながら献立表を作成している。水分の不足を補うために甘くしたり、ゼリーやヨーグルトにして工夫している。糖尿病等の場合は栄養士に助言を求めている。	○	栄養士にカロリー計算をしていただいているが、年に一回と回数が極端に少ない。カロリー計算方法を取得しての毎日のカロリーの把握が必要であり、利用者の一日の水分量の把握も必要である。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光を多く取り入れるように工夫され、廊下に植物が配置され、季節感が感じられる共用空間があり、廊下にはソファが配置されてそれぞれが自由に過ごせる空間になっている。温湿度計もあり、湿度や気温の管理もされている。壁面には手作りの作品が飾られ居心地の良い空間になっている		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のなじみのあるタンスや置物、テレビ等が持ち込まれ、写真等もありそれぞれの利用者合ったなじみの空間になっており、部屋全体が落ち着ける雰囲気になっている。利用者の思いを尊重しながらその人らしい空間になるように支援している。		